



# 岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

## イソフラボン摂取と皮膚生体測定値および骨密度に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード: 作成者: 永田, 知里 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12099/665">http://hdl.handle.net/20.500.12099/665</a>

## I. はしがき

数多くの実験研究より、大豆にふくまれるイソフラボンにエストロゲン様作用のあることが知られている。エストロゲンが、皮膚の老化の進行を遅らせたり、骨粗鬆症を予防する働きがあるとされているため、生物学的にはイソフラボンを多く含む大豆製品の摂取も同様に作用することが期待される。

本研究では、一般女性を対象に、既に妥当性が確立された食物摂取頻度調査票を用いた大豆イソフラボン摂取量の推定、血中イソフラボン代謝物測定を行い、皮膚の水分・油分、弾力性、色の測定、三次元的しわ解析の結果との関連性を評価する。また、同様に踵骨での骨密度、血中骨マーカーとの関連も調べるものである。

また、イソフラボン摂取量と骨密度および皮膚生体測定値の両者に関連があると考えられる女性ホルモン値、insulin-like growth factor、葉酸、ホモシステイン値などについては測定を加え、イソフラボン摂取と骨密度および皮膚生体測定値の関係を修飾する可能性についても考慮することとした。

ホルモン補充療法が骨量減少には最も効果的であるが、最近の介入研究の報告から副作用の可能性も指摘されており、代替療法として大豆が用いられる可能性もある。また、大豆およびイソフラボン摂取と皮膚の老化や健康については、申請者が知る限りでは、人間を対象とした研究がなく、本研究が貴重なデータを提供することとなる。